



桜の文化と生態

フラワーソサイエティー 横井邦彦

日本で見られる 野生のサクラ

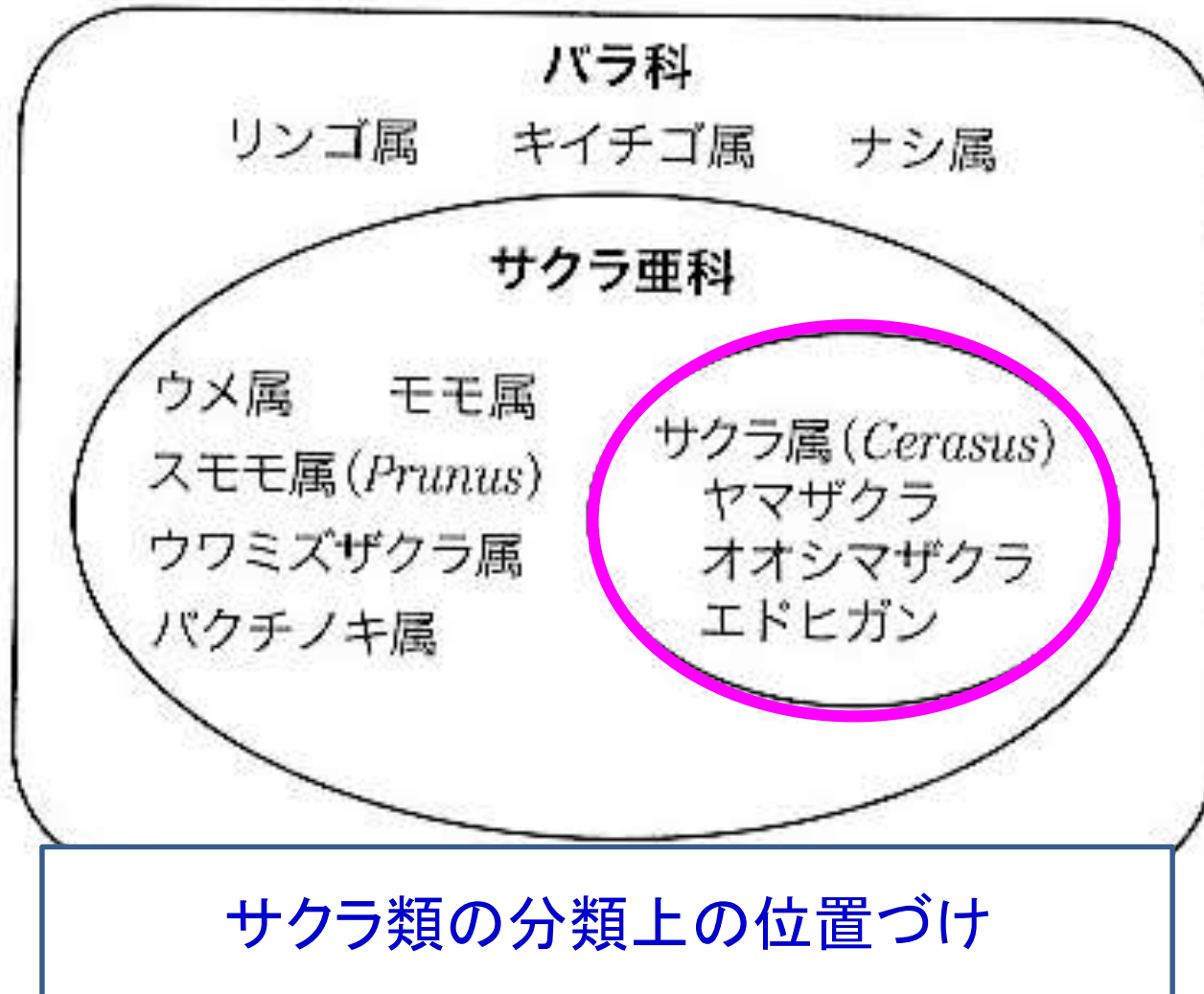
10野生種から 多様な品種

2015.3.14

朝日新聞記事より



スモモもモモもサクラのうち



5枚の同じ形をした**花弁**と多数の雄しべ、1本の**雌しべ**を持つ
果実の中に一つの大きな**種子**(核)を持つのも特徴

バラやリンゴも5枚花弁だが、**複数本の雌しべ**を持ち、**複数の種子**が入る

表 I-1 桜の種類(群名, 種名とも主なもののみ)

自 生 種	
ヤマザクラ群	ヤマザクラ, オオヤマザクラ, オオシマザクラ, カスミザクラ
エドヒガン群	エドヒガン
マメザクラ群	マメザクラ, タカネザクラ
カンヒザクラ群	カンヒザクラ
園芸品種 「里桜」	

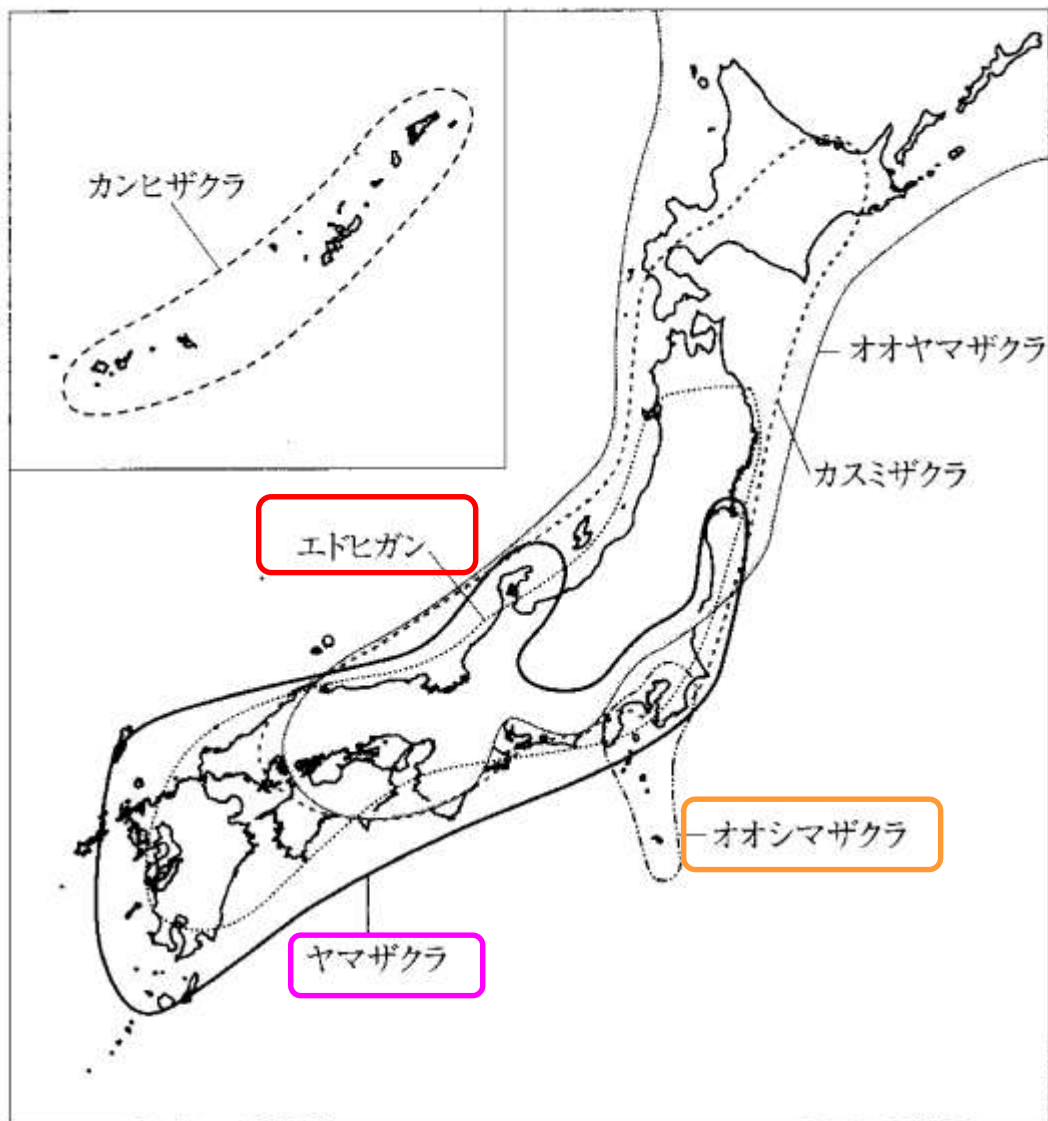


図1-1 サクラ自生種の分布

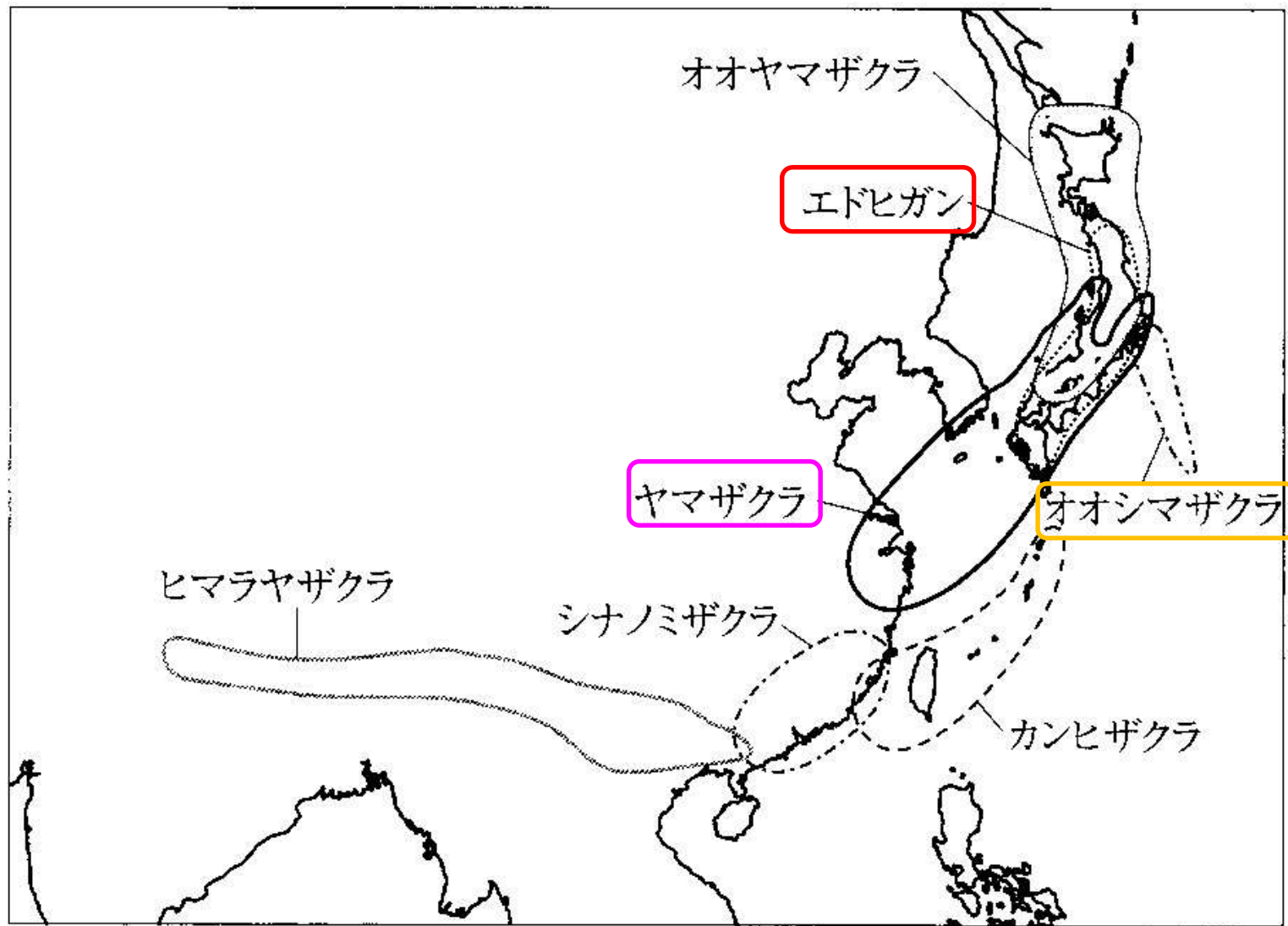


図2-2 アジアのサクラの自生域



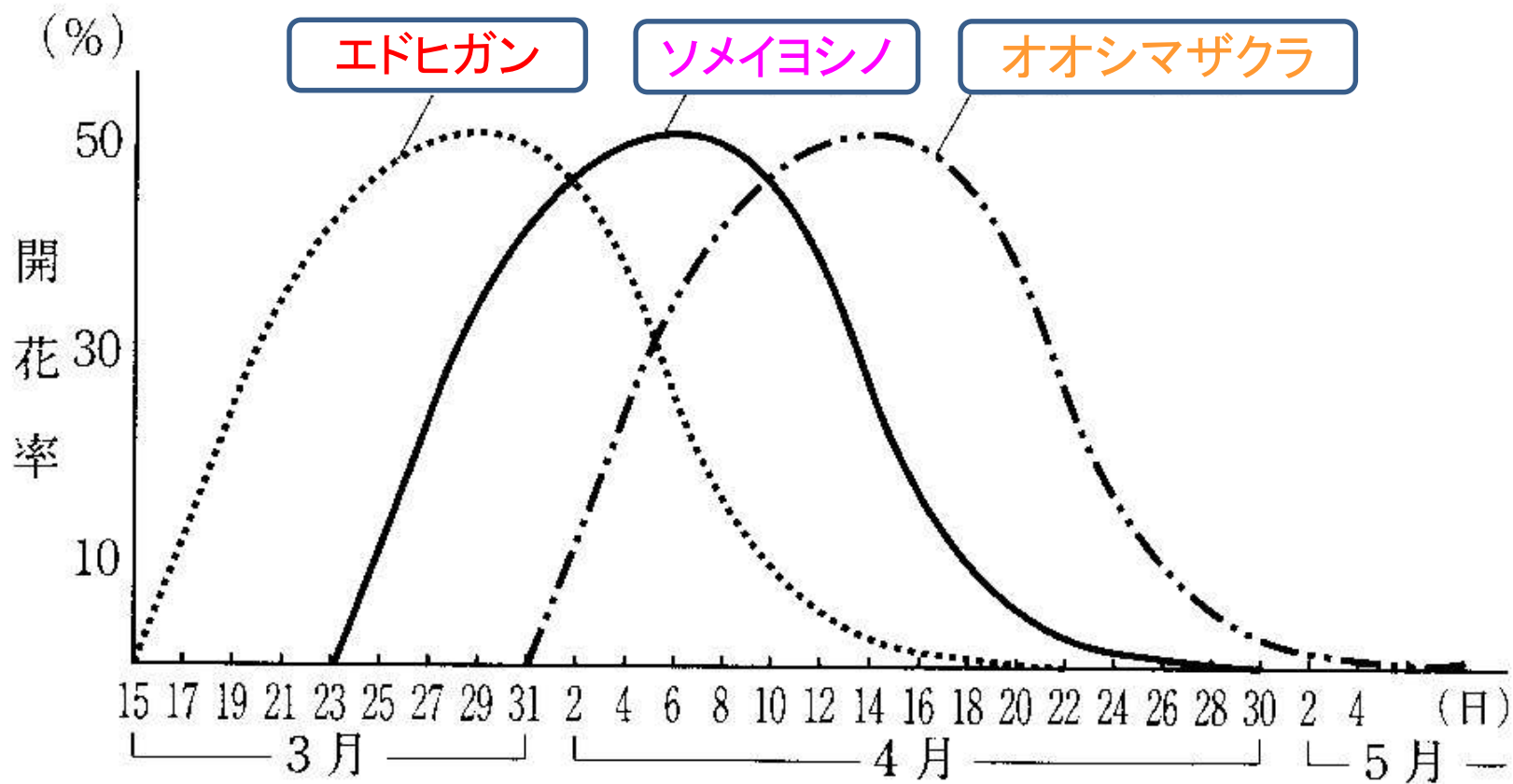
皇居お堀端の桜
ソメイヨシノ



奈良・大宇陀の又兵衛桜
樹齡300年
エドヒガンの枝垂れ

「三日見ぬ間の桜かな」

- ソメイヨシノは花は多いが、短命
- 江戸時代末期以前までは、
山桜、八重桜、枝垂桜をさし、これらの桜は花が比較的長持ちし
「ソメイヨシノ」のように散らない
- (引用; 栗田勇2001/花を旅する/岩波新書)



出典：岩崎文雄『染井吉野の江戸・染井発生説』

図1-3 ソメイヨシノ、エドヒガン、オオシマザクラの
開花曲線(1989年、小石川植物園)

梅 と 桜

- 梅 は外来文化の象徴
律令貴族の花
- 万葉では 花 = 桜
- 紫宸殿の庭の正面「右近の橘、左近の梅」が
957年桜に代わり、日本人の好みが定着

桜への思い入れ

- 古代民俗信仰 木花之開耶姫 (このはなさくやひめ)
- 春の女神 豊穰をもたらす神が桜の木に降りてくる
- 春の喜び新しい命 穫りを願ってお祝いする
- 自然発生的な花祭り → 農耕と結びつき
- 神と共に歌い、踊り、舞う “神遊び”
- 桜の下で宴する集いの始まり お花見に



お花見

文学作品に桜の登場「伊勢物語」

- 主人公の在原業平 と 知人とのやり取り
- 「世の中にたえて桜のなかりせば 春の心は
のどけからまし」
- 「散ればこそいとど桜はめでたけれ 浮世に
なにか久しかるべき」
- 散ってしまうからこそすばらしい。
- 日本人的な季節感に諸行無常という仏教的
な無常観が入ってきている

散る桜への想い

- とことんまで咲ききって、ある時期が来たら一瞬にして、一斉に思い切って散っていく
- 生ききって身を捨てるという散り際の良さ、日本人にはこたえられないのでは
- 花吹雪となり散る生き生きとしたエネルギー
- 散ることで次の生命が春にまた姿を現す
- 生命の交代 深い意味のエロティシズムの極致

桜の下で集まる お花見

- 桜の大樹の枝下は聖別された「に・わ」
= 神をまつる場所、
神がそこに宿っている聖域
- 桜の下は、神社の境内のようなものとして、
心も裸になって皆が集い、言魂の生命力が
湧きだす出す空間が出来るという気持ち

桜ぐるい

- 西行法師

「願がわくは花の下にて春死なむ
その如月の望月の頃」（山家集）

- 本居宣長 桜の歌を二百首も残した

「敷島の大和心を人とはば
朝日ににほふ山桜花」

- 良寛さん 辞世の言葉として残した句

「散る桜 残る桜も 散る桜」

サクラの歴史

1. 上古 ; 緑樹崇拝としてのサクラ
2. 奈良時代; 王権の瑞祥と、美しい花の精
3. 平安時代; 桜こそ都の花
4. 鎌倉・室町時代; サトザクラの出現
6. 安土桃山時代; 秀吉 吉野・醍醐の花見
7. 江戸時代; 庶民へ花見の拡がりサクラの名所
元禄文化 桜観の転換
8. 明治時代; ソメイヨシノ 軍国の花、靖国の花

1.上古 緑樹崇拝のサクラ

(引用; 本田正次・松田修1982/花と木の文化・桜/家の光協会)

- 古事記(712)、日本書紀(720) 常緑樹
- 日本書紀の履中天皇 磐余稚桜宮のサクラ
充恭天皇 皇妃 衣通郎姫(ソオシノイラツメ)の
美しさをサクラにたとえて詠った
- 大和の大王家にとって瑞祥のサクラと
美しい乙女の輝きのサクラ 桜観の成立
☆春の女神「木花之開耶姫」

サクラは占いの花

- サクラは春の美しい花として目にとまった
- 自然の中に生きる上代人、草木にも霊をみて、自然によって支配されている(アニミズム思想)
- 自然界に対する畏敬崇拝、樹木を神聖し、花が咲くのも神の象徴、咲く花散る花すべて神の至言、花によって年の豊凶を占った
- 上代農耕民族の本性
- サクラの花をイネの花に見立てる

ヤマザクラ

種まきザクラ、田打ちザクラ

- 暦の無かった時代のサクラの開花
- この花が咲いたら農作業の始まりを教える、季節感の目印になる花
- 上代農耕民族の最も恐れたのは、イネの花の咲くころの二百十日、二百二十日の台風、祓い、禊、占いの神祭り
- 冬の雪が解けて水ぬるむ頃、コブシの花とともに薄紅色の山桜が咲く 粃種を播く



農事暦の花 田打ち桜
コブシの花

サクラは農耕の占いの花

- 農耕民族 稲作の吉兆を占う
- サクラの語源
- サ サナエ(早苗)、サオトメ(早乙女)のサ
稲を意味し、穀霊すなわち田の神
- クラ 神座 田の扱代
- 農事の開始される直前に咲く花から、穀霊
の宿る座として信じられ信愛の情

サクラのサ は 稲の意味

- さと 里
- さなえ 早苗
- さつき 皐月
- さなえづき 早苗月
- さおとめ 早乙女
- さみだれ 五月雨
- さおり; 田植えを始める日の祝い
- さなぶり = さのぼり
田植えが済んだ祝い
- さのぼる (早上る)
田植えが終わる

木花之開耶姫 (コノハナサクヤヒメ)

- 桜の花とも関わりが深い日本古来の女神、富士山の祭神で浅間神社に祀られる火山鎮護の神
- このはな(木の花); 木に咲く花 特に桜の異称
- 天照大神の命を受け、ニギハミコは高天原から、この国を治めるために降り、一人の美女に会い求婚 大山津見命の妹娘
- 大山津見命は喜び、姉妹を送り出す
- 姉(石長姫)は醜かったので送り返される
- 天津神の生命が石のように永遠に変わらず、桜の花のように栄えることを祈る意味を込めていた

咲くや此花は「梅」

<http://www.minabe.net/>

難波津に

咲くやこの花

冬ごもり

今は春へと

咲くやこの花

王に

古今和歌集 級名序



古代民俗信仰

- 春の女神で豊饒をもたらす神が桜の木に降りてくる。田の神はふだん山に居る。
- 山のサクラが咲くと出かけて行き、酒肴を供えて拝し、咲き具合でその年の豊凶を占った
- 神と共に歌い、踊り、舞う「神遊び」という形で、桜の下で遊ぶ宴、集い → お花見に
- 散る花を嫌い、何時までも咲いてくれと願う
鎮花祭

鎮花祭 はなしずめのまつり

- 春、花が飛散する時、その花片にのって、疫病神が四方に分散し、流行病を起こすと考えられ、これを鎮め、疫病の蔓延を防ぐため、国家の大祭として毎年必ず行うよう定められていた祭り
- 人間が生活していくうえで生死に関わる最も原初、根源的な祭りとされる
- 後に京都今宮神社の「やすらいまつり」の風流踊などのように芸能化していった

花祭り・鎮花祭



京都・今宮神社の
「やすらい祭り」

毎年4月10日に行われる
人びとは社前の満開の
桜の下で
“ヤスラエ、花ヤ”
とはやしながら歌い踊る

稲の花の象徴である
桜花が散らぬよう念じて
唱えたのであろう
秋の実りを祈願する

2. 奈良時代

- 王権の瑞祥
- 美しい花の精
- 大陸との交流により、観賞花の風習が生まれる
- 野生のサクラを庭に植えることの始まり
- 「わが屋前(やど)の桜」として愛した

3. 平安時代 桜こそ都の花

- 南殿の桜 「左近桜」の始まり
- 紫宸殿の前庭の東西(梅と橘)の梅樹が、桜樹に代る
- 嵯峨天皇の時から観桜の花宴が催され、現代に続く宮中花宴の始まり
- 王朝の瑞祥、美の極みの桜こそ「都の花」
- 平安時代はサクラの時代

右近の橘

左近の桜

平安神宮



春の風物詩

都大路の柳と桜

素性法師の歌

花ざかりに

京をみやりてよめる

「みわたせば
柳桜をこき混ぜて

京ぞ春の

錦なりける」

(古今和歌集 春歌)



京都・鴨川沿い

平安時代(続)

- 1096(永長1) 白河上皇、長櫃にハギ、オミナエシ、ススキ、キクなどを植えた作り花を競う《前裁合》。

器物に花を植えはじめ

- 1130～50 《源氏物語絵巻》庭に ウメ、サクラ、カエデ、シダレヤナギ、タケ、ハギ、ススキ、オミナエシ、フジバカマ、ツタ
- 1160(永暦1) 歌人顕昭、箱根山のシダレサクラ詠む。
箱根にエトヒガンの変種イトサクラ
- 1191(建久2) 僧栄西、禅宗臨済導入、茶種を九州の背振山に植える

源氏物語絵巻(桜あそび) 1130~50

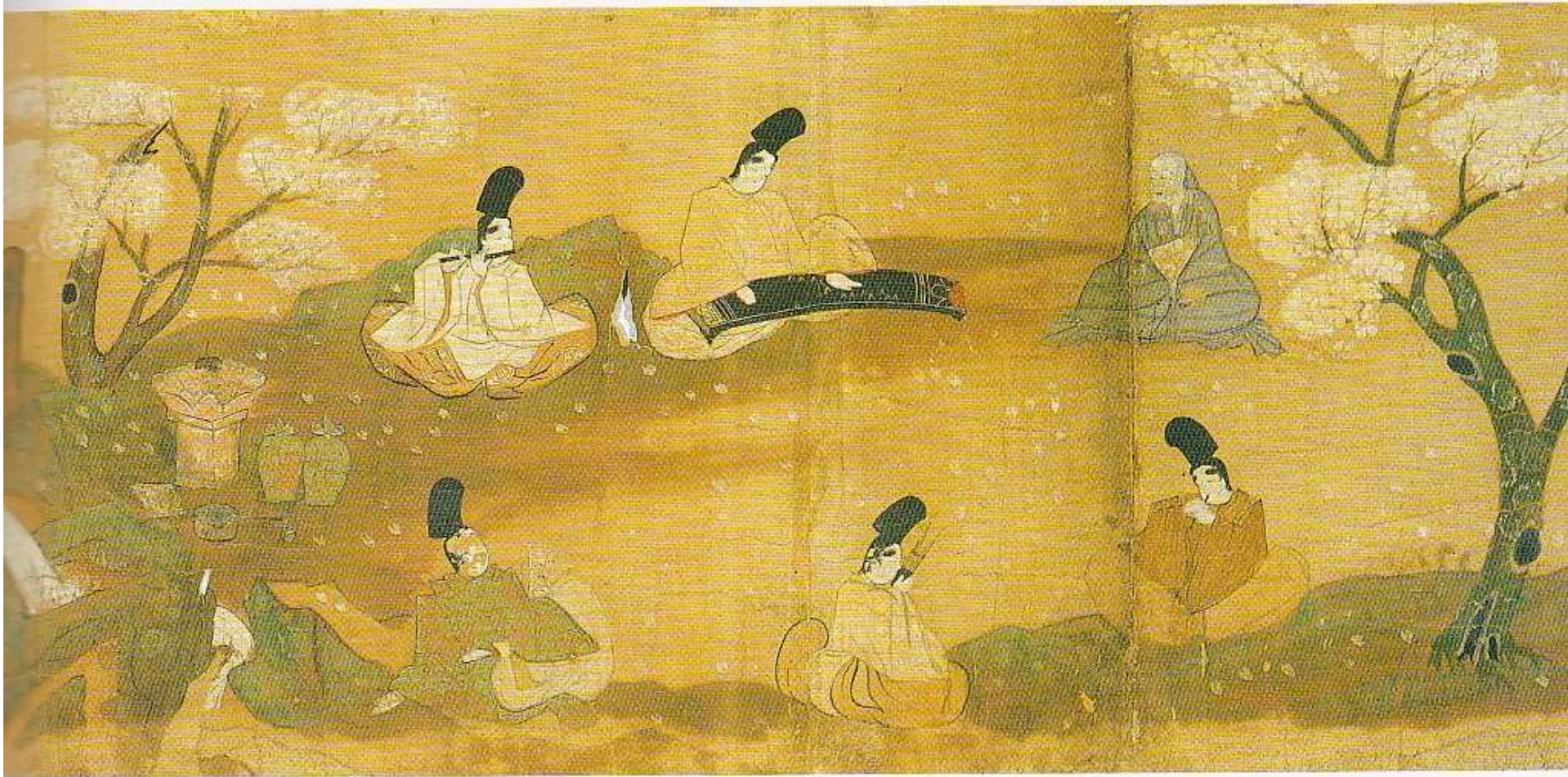
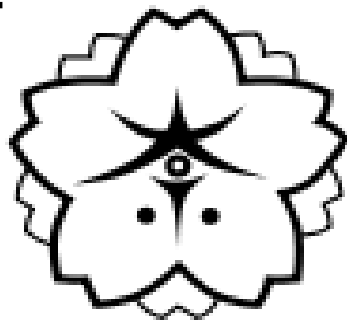


図 II-3-3 源氏物語絵巻 (桜あそび) 天理図書館所蔵 Genjimonogatari-emaki (Sakura asobi)

ナラヤエザクラ

- 奈良の八重桜
- *Prunus verecunda* 'Antiqua'
- オクヤマザクラの変種
- 4月下旬から5月上旬開花
- 『詞花集』伊勢大輔の和歌
- 奈良市の市章に





ナラノヤエザクラ

花 桜の名歌



4. 鎌倉・室町時代

- 枝垂桜(エドヒガン)が寺院に現われ、糸桜の名で観賞され多くの歌に詠まれた
- サトザクラの出現; 離宮や貴族の邸宅にサクラが多く植えられ、‘普賢象’‘泰山府君’‘桐ヶ谷’など八重で花が大きい里桜
- 歴史上有名な人物ゆかりの‘西行桜’や‘石戸の樺桜’などが出た
- サトザクラは鎌倉の武士文化が育てた
- 西行法師

鎌倉武士が育てたサトザクラ(里桜)



里桜・ヤエザクラ

サトザクラ (造幣局通り抜け)



小手毬
2012年「今年の花」

普賢象



桜への思い入れ

- 世の中にたえて桜のなかりせば 春の心は
のどけからまし 在原業平
- 願わくは花の下にて春死なん そのきさらぎ
の望月の頃 西行法師
- 敷島の大和心を人とはば 朝日ににほふ
山桜花 本居宣長
- 散る桜 残る桜も 散る桜 良寛

西行像 吉野水分神社

西行: 俗名佐藤義清、
平安末期・鎌倉初期の歌僧
鳥羽上皇に仕えて北面の武士
23歳の時、無常を感じ僧となる





西
行
庵

願わくは花の下にて春死なん
そのきさらぎの望月の頃

西行法師

吉野山の桜

これはこれとはばかり花の吉野山
江戸前期の俳人 安原貞室の句

吉野山の桜は蔵王権現
の神木・聖木

吉野山 ヤマザクラ



兼好法師のサクラ観

- 「前栽の草木まで心のままならず作りなせるは、見る目もくるしく、いとわびし」『徒然草』
- (1330年頃)と人工的に仕立てた植木を批判し、
- 花は一重が良いとして、当時増えつつあった八重桜を「異様のもの」として敬遠する。
- しかし、ウメでは「かさなりたる紅梅の匂ひめでたきも、いとをかし」と八重も「をかし」として

花見の風俗

- 室町時代末期～桃山時代初期にかけて制作された『月次風俗図』
- 貴婦人や武家、さまざまな人たちが集いにぎわう様が描かれている
- 洛中では優美な枝垂桜が好んで植えられた



図11-4-18 月次風俗図部分 東京国立博物館蔵 Tsukinami-huzokuzu

秀吉 吉野の花見

(文禄3年1594年)

- 家康、利家、政宗ら武将茶人ら5千人連れて大花見
- 3日間雨続きで立腹
- 明日も雨なら山に火をつけ帰る
- 全山僧侶が晴天祈願
- みごとに晴れて盛大花見

「年月の心につけし吉野山
花の盛りを今日見つるかな」





一目千本 吉野山の桜

秀吉も一目千本で
「絶景じゃ！絶景じゃ！」



図II-4-21 醍醐花見図部分 国立歴史民俗博物館所蔵 Daigo-hanami-zu

秀吉 醍醐の花見大行列(慶長3年1598年)

5. 江戸時代

- 花見が庶民に広がる 桜の名所出現
- 元禄文化 桜観の転換
- 歌舞伎劇において
「花は桜木、人は武士」
- 幕末の革命青年志士は、
好んで散る桜をわが生命として詠う

徳川吉宗 庶民に花見を奨励

- 吉宗が、各地に桜を植えさせ、江戸市民の憩う場所を作り出した背景には環境を整備して、頻発する火事による延焼を防止
- 桜以外に土手に柳や松を植える緑化計画も
- 代表的な場所が、隅田川の桜堤（向島）、飛鳥山（王子）、御殿山（品川）
- 放火など治安の悪かったこの時代、庶民に花見という娯楽を与えることで憂さ晴らしをさせ、人の心を安定させようとした

飛鳥山花見の図 勝川春潮筆



「江戸名所
四季之眺め
御殿山
花見之図」
歌川広重



「四季之内
春
花見帰り
隅田の流し」
溪斎英泉



三福神吉原通り図巻



図II-5-19 三福神吉原通り図巻 鳥文斎栄之筆 日本浮世絵博物館蔵
Sanpukujin-Yoshiwara-kayoi-zukan Chōbunsai Eishi

連歌・俳諧における花の座

- 我々の祖先は自然風物の中で、月と花とを風雅の象徴として特別に賞美してきた。連歌や俳諧でも特に「花の座」「月の座」を設けて、位の高いものにしている。
- 蕉風歌仙では、初折（一枚目）の17句目（花）と名残の折（二枚目）挙句の前（花）を詠む
- 花をもたせる、大事な人、花をもってもらう人
- 「花」の本意は、最も賞翫すべきものの意で、華やかで麗しいものを賞美する心が込められている。したがって「花」という語は、「桜」という特殊な限定を超えてその範疇を拡大する。

蕉風歌仙における「花」

歌仙	初折	表(6句)……	5句目	(月)
		裏(12句)	8句目あたり	(月)
			11句目	(花)
名残の折	名残の表(12句)	11句目あたり	(月)	
	名残の裏(6句)	5句目	(花)	

歌仙では二花三月

長句と短句を交互に36句続け、2枚の懐紙に第1紙の表に6句、裏に12句。第2紙の表に12句、裏に6句を書きつけた。蕉風確立後連歌形式の主流に

花の句を詠む 花をもたせる、大事な人、花をもって
もらう人

花 桜の名句

- ながむとて花にもいたし首の骨 梅翁(宗因)
- 何と世に桜も咲ず下戸ならば 二万翁(西鶴)
- 花にうき世我酒白くめし黒し 芭蕉
- 花のくもかねはうへのか浅くさか 芭蕉
- 踏れけり花口惜か今一度さけ 宗旦
- 桜咲ころ鳥足二本馬四本 鬼貫
- 咲からにみるからに花の散からに 鬼貫



幕末の革命青年志士、
好んで散る桜をわが
生命として詠う

京都・円山公園のサクラ

染井吉野の誕生

江戸の染井村で生まれたサクラ(吉野)



ソメイヨシノ発祥の里



漆井之植木屋

花屋の伊左衛門といふ
 けしを植へておくに
 花のころいそがし
 集むそ外千景
 万本をもとけと
 とかーはか分一
 の植木屋なりと
 よく方角津座本
 陣地など大いけい
 としよりけり
 と毎のくわり





上野乃満花 不忍競馬之図(幾英画，明治22年(1889年))

所蔵：東京都江戸東京博物館

Image：東京都歴史文化財団イメージアーカイブ

上野不忍池公園の桜

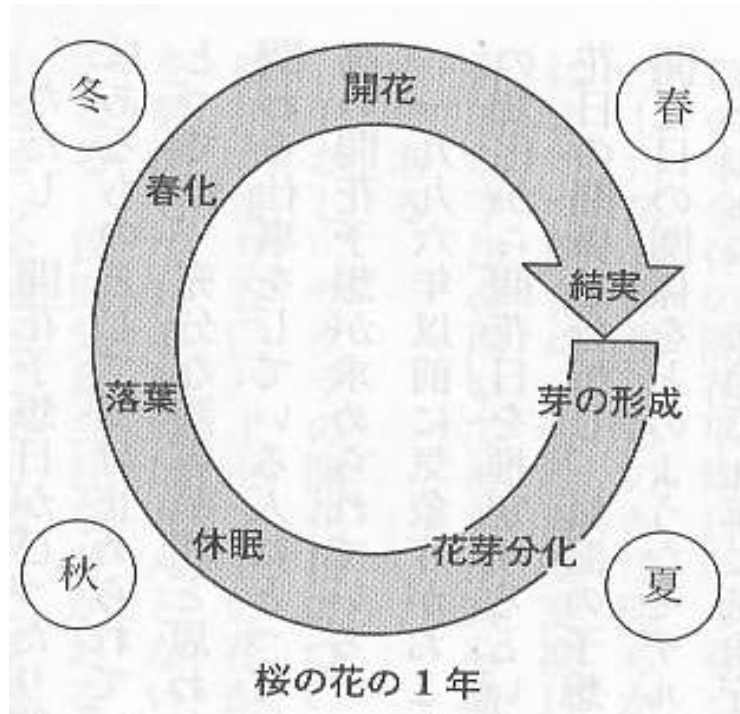
6. 軍国の花、ソメイヨシノ

- 死の花としての桜観を増幅した
- オシマザクラ(大島桜)とエドヒガン(江戸彼岸)との自然交配種
- 明治になって江戸から全国に流行波及
- 花つき多い、花期の長くないサクラ
- 短い花期の夥しい落花は死の無常観へ人を導く
- 明治末期、陸軍唱歌が武人の死を鼓吹し、軍国の靖国の花となった



東京・靖国神社前

サクラが開花する仕組み



サクラの開花予想
2009年までは気象庁が発表
現在は民間気象予報会社

- **花芽**は、咲く前年の夏にはできている
- 夏の終わり頃には、**花芽**の中で花の基になる組織は出来上がる
- 翌年の春まで休眠
- 葉中の**アブジン酸**(植物ホルモン)が、冬芽の成長に必要な**ジベレリン**の作用を抑制し休眠
- **冬期の低温刺激**によってアブジン酸が減少しジベレリンが増加、**休眠解除**
- **暖かくなり**やがて**開花**

気象庁の開花予想

1996年以前; サクラの花芽の重さを計測し、成長の変化から開花日を推定する手法

1996年以降; 気温の効果を温度変換日数に変換し、一定の温度変化日数に達すれば開花すると考える手法

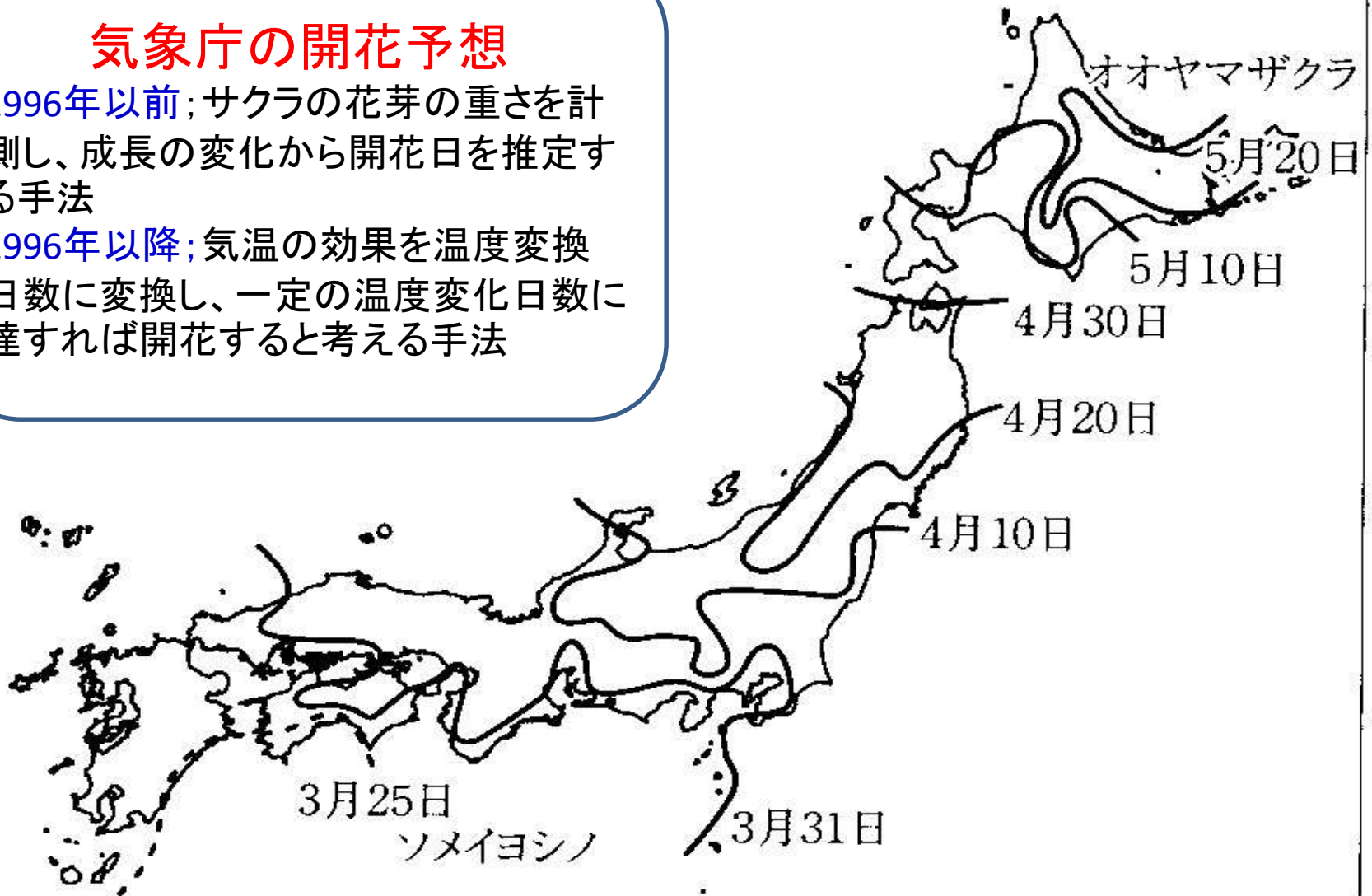
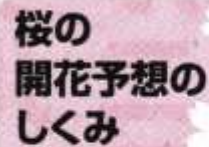


図 桜の開花前線(1961～1990年の平均値、気象庁)

(日本気象協会3月4日発表)

北海道は
4月上旬に発表



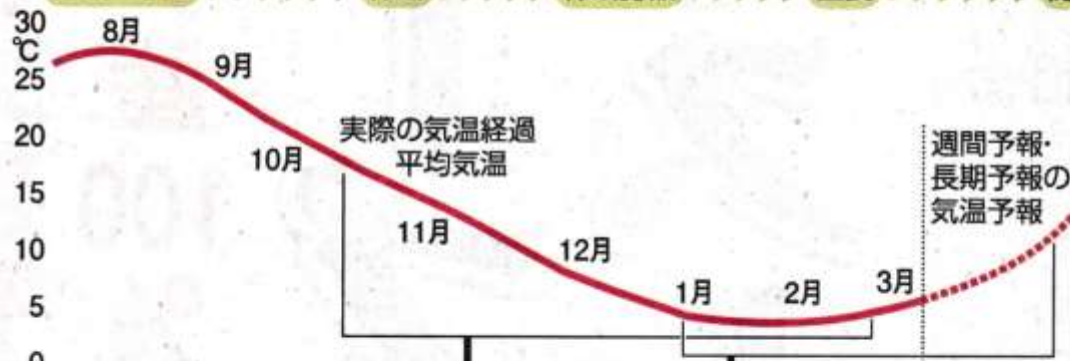
花芽の形成

睡眠

睡眠打破

生長

開花



過去のサクラの開花日 と気温のデータ

睡眠打破に必要な 低温の影響

その生長に及ぼす 気温の影響

サクラの開花予想式

予想開花日

(気象庁資料から)

The Asahi Shimbun

サクラを食べる

・桜餅

- 長命寺のさくら餅
吉宗が享保の頃向島の堤に桜の植樹
その葉で江戸和菓子
米粉の餅
- 道明寺のさくら餅
半ねりの糯米(道明寺粉)で餡を包む
- オオシマザクラの葉
- さくら湯





オオシマザクラ

桜の版木

- 版木で印刷することを「桜にのぼす」と言う
- 日本では、版木の材料は桜、それも山桜が最も良いとされた
- 桜の木は緻密で墨の含み具合が良く、掘るときは柔らかく、時間が経つにつれて硬くなる
- 「桜木に上し」＝出版の意味
- 「梓(し)に上す」「梨棗(りそう)に附す」と同意



サクラ切る馬鹿ウメ切らぬ馬鹿

- 強い剪定を嫌うので、重なった枝や混み過ぎた枝を切る程度にし、なるべく自然樹形で育てる
- 根元から出るひこばえや幹から出る枝は、樹勢を弱くする原因となるので、見つけ次第、根元から切り除く
- 前年に伸びた枝から勢いよく伸びる徒長枝は、基部の2～3芽を残して秋に剪定
- 切り口から腐敗菌が入りやすいので、殺菌剤を塗って癒合を促す

サクラの繁殖法 実生

サクラの果実(種子)

多肉果(果皮・中果皮厚く水分や糖類を含み、内腔なく種子と密着。核果で1個の種子。果肉に発芽阻害物質を含む。

成熟の翌春か翌々春に発芽する(D2年型)



5月に採り播き



河津桜

2013,5.13採種

2014.4.3発芽状況

稚苗の伸長成長は速い、浅根性で細根が多い



サクラの挿し木 ソメイヨシノ

2013年4月11日採穂
ペットボトルに底穴
バーミキュライト
底面吸水室内置き



2013年6月6日
発根状況

さし木時期
3月～4月上旬
6月～8月上旬



接ぎ木(芽接ぎ)9月



台木;アオハダザクラ
穂木;普賢象
2011.9.11芽接ぎ
右上;2012.4.10
右下;2012.6.6



サクラ 接ぎ木の適期

- ①切り接ぎ 3月中旬～4月上旬
- ②芽接ぎ 8月～9月

病虫害防除

- **アメリカシロヒトリ**;初夏と秋に発生し、葉を食害
- 発生初期に**殺虫殺菌剤** ベニカXファインスプレー、ベニカグリーンVスプレー、**殺虫剤**ベニカケムシエアゾール、ベニカスプレー、スミソン乳剤、オルトラン液剤散布
- **サクラコブアブラムシ**;新葉の展開期に葉が縮れ、細長い紅色の虫こぶができる
- 4月～6月に**殺虫殺菌剤** ベニカXファインスプレー、**殺虫剤** アクテリック乳剤、スミチオン乳剤を散布
- **てんぐ巣病**;ソメイヨシノに、枝から細い枝が多数出る病害。冬期に病枝の基部から切り除き、焼却。病枝切除後は、**殺菌剤**トップジンMペーストを塗って、その後の発病を予防
- **根頭がん腫病**;若苗で発生、根が異常に肥大する病害。
- 土壌感染するので、発見したら掘り起こして焼却、土壌消毒や客土する

アメリカシロヒトリ

- 初夏と秋に発生し、葉を食害
- 発生初期に殺虫殺菌剤 ベニカXファインスプレー、ベニカグリーンVスプレー、
- 殺虫剤ベニカケムシエアゾール、ベニカスプレー、スミソン乳剤、オルトラン液剤散布



アメリカシロヒトリ



ウメケムシ



モンクロシャチホコ

サクラコブアブラムシ



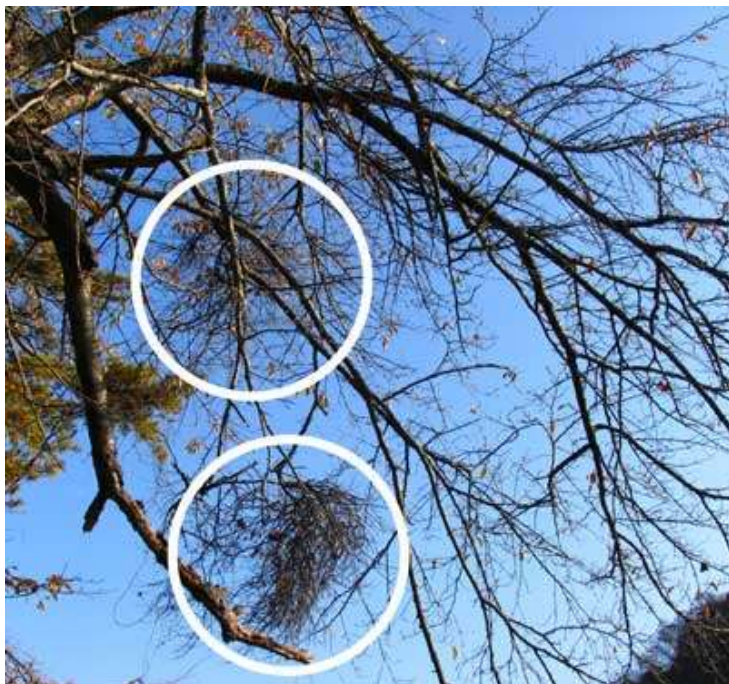
サクラコブアブラムシの被害葉

- 新葉の展開期に葉が縮れ、細長い紅色の虫こぶができる
- 4月～6月に殺虫殺菌剤 ベニカXファインスプレー、殺虫剤 アクテリック乳剤、スミチオン乳剤を散布



サクラヒラタハバチ

数十頭の集団で枝葉上に糸を張り巡らして天幕状の巣を作る。
6～8月に発生。



てんぐ巣病

- ソメイヨシノに、枝から細い枝が多数出る病害
- ヤマザクラの仲間では見られないといわれる
- タフリナ菌（糸状菌・カビ）によって発症
- 冬期に病枝の基部から切り除き、焼却
- 病枝切除後は、**殺菌剤**トップジンMペーストを塗って、その後の発病を予防



寄生木・ヤドリギの被害も甚大



ウメノキゴケ

(梅の木苔、*Parmotrema tinctorum*)



灰緑色の葉状地衣類で、樹皮や岩に着生する。樹が衰えて来ると発生する

桜 櫻 さくら

- 嬰(エイ)は「貝二つ×女」の会意文字 貝印を並べて、首に巻く貝の首飾りをあわらし、とりまく意。
- 櫻は、花が木をとりまいて咲く木
- さくら; 馬肉 桜色をしていることから
- さくら(おとり); 露店などで、客を装って買うふりをして、他の客の購買心をおこさせる人
- 本来は江戸時代に芝居小屋で 歌舞伎をタダ見させてもらうかわりに、芝居の見せ場で役者に掛声を掛けたりしてその 場を盛り上げること、またはそれを行う者のことをサクラといった。



ご清聴ありがとうございました